



特集

「小6②適性検査型模試」

中学入試レポート

4カ月後に迫った2020年度大学入試改革にも適応する、

公立中高一貫校入学者選抜 「適性検査」問題を解く力

今回は、首都圏中学模試センターが主催する「適性検査型模試」。小6は2回目、小5は今年度初めての実施だ。新型コロナ（COVID-19）感染の不安が収まらぬ中、各公立中高一貫校では来年度生徒募集に向けて、コロナ感染防止を大前提に、事前申し込み・定員制のオンラインでの学校説明会を開催。入学者選抜要項も発表される等、本番間近を実感させる動きが本格化してきた。それは同時に、受検生と保護者にとり、それぞれの“入学志望校＝受検校を決定していく時期”であり、受検生にとっては、志望校の選抜考査問題＝適性検査問題への対策学習が本格化する時期でもある。いま、受検生はその受検準備および学習に寸暇を惜んでいることだろう。

同時に、この時期に保護者がやらねばならないこと（特にコロナ渦の本年は）、それは二つ。一つは受検生の受検勉強のサポートと心身両面のケアであり、二つには受検生の小学校卒業後の進路を改めて考え、わが子にとってのベストの進路を選択することである。

例をあげるなら、2020年度「大学入試改革」（内容的には当初の案より後退したが）はあとわずか4カ月後に迫った。受検生が大学入試に挑戦する時期は、日本の教育が大きく変化する、まさにその真ただ中。今回のレポートが、そうした変化をも意識して、受検生にとって最善の進路選択をするためのご参考になれば幸いである。

首都圏模試センター

公立中高一貫校の「適性検査」 問題対策の学習で身につけられる力

本題に入る前に、まず確認しておかなければならないことがある。それは、入試の可否を分けるとよく言われる“天下分け目の夏休み（関ヶ原）”、過ぎてしまった夏休みの反省は出来ているか、ということ。当然だが、学習に関しての反省である。しかし、こんな声も聞こえてきそうだ、……「今年は夏休みらしい夏休みなんてなかった」・「例年の半分以下の日数だった」等々。が、だからこそいま（現在）なのである。

2020年、年初から世界は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の大流行による多大な影響を受けた。私たちの国日本もその例外ではない。そして、いまだに感染症流行収束のめどが立っているとは言えず、本稿執筆時点（8月中旬）において、日本はその感染流行第二波の真っただ中にあるとさえ言われている。来年度に公立中高一貫校（進学志望校）の入学者選抜検査受検を控えた受検生及びその保護者だけでなく、すべての人々が、感染への不安と、そしてその先が見通せないことによる不安の中で毎日を過ごしているのだ。

しかし、そんな不安な時期だからこそ、受検生には来年度の入学者選抜合格に向けて、落ち着いて受検勉強を進めて欲しい。今日は9月13日、“すでに”本年度の夏休みが終了して約1カ月が過ぎた（地域により1週間前後の差異はあったとしても）。そこで現在、8月初めからの、例年に比して“短かった”この夏休みに、いや、その夏休みを含めた“これまでの時間”に何が出来て何が出来なかった（出来ていなかった）のかを明らかにすること＝反省することの有無は、受検生個々のこれからの受検勉強の内容やその進め方に、大きな差となって現れることになるはずだからである。

現在までに発表された公立中高一貫校の来年度入学者選抜の実施要項を見ると、神奈川県立校でグループ活動を実施しない等の一部を除いて、その選抜方法に特筆するような変更点はなく、同様に「適性検査」問題の出題方法・内容にも本年度との変更点は見られず、入学者選抜は従来通りの形態で実施されると考えて良さそうだ。年初からの小学生を取り巻く状況（特に、学習環境）を勘案すれば、来年度の「適性検査問題」が従来通りとなることへの異論はもちろんあると思われる。しかし、そう決定されたのなら、受検生及び保護者にとって、より重要なことは、入学者選抜＝「適性検査」合格のために、これまでの受検生が勉強して身につけてきたであろう学力（レベル）は、是非とも身につけておかなければならない、ということである。

「適性検査問題」は教科別出題ではなく、教科横断型出題であると言われる。だから教科ごとの学力はそれほど関係ないと。しかし、それは否である。教科横断型出題であるからこそ、より一層の教科別学力が問われるのだ。教科ごとの基礎学力及び応用発展力＝獲得された学力を駆使して、課題を発見し解決する思考力・判断力・表現力等を見る……、それこそが「適性検査」問題なのだから。

前述した反省のポイントとは、

- ①(保護者とともに)計画した通りに過ごせたか？
- ②(第一志望校が決定しているのなら)その学校に



今回の『ブレイク』掲載「公立中高一貫校レポート」(19)でご紹介している東京都立富士高等学校附属中学校



特集 4カ月後に迫った2020年度大学入試改革にも適応する、 公立中高一貫校入学者選抜「適性検査」問題を解く力

入学するための学習が出来たか？

③(通塾生がほとんどだと考えて)塾での夏期講習を中心とした学習はどうだったのか？

④入学者選抜まで、及び選抜を乗り切るための体力・精神力は培えたか？

⑤これまでなら、基本的に、受検勉強の基礎づくりは夏休み終了までにだが、本年度の場合も8月終了までに基礎・基本はおさえられたか？基礎固めは出来たか？

⑥苦手・弱点教科(分野)は克服出来たか？

なぜ基礎・基本がそれほど重要なのか……。学力は積み上げていくもの。“基礎・基本力”の上に“応用・発展力”が積み上がるからである。そして本番では、基礎・基本レベルの問題で確実に得点をあげなければ合格はおぼつかない。“点は点”、難問は誰にとっても“難問”なのだから。合格最低ラインは60～70%、満点は不要だし、とれないと考えるべきだ。

反省(反省材料として、今回の「模試」の結果資料は非常に有益なはずである)をふまえて、今後の学習のあり方を再検討しよう。何が足りず、どのようにして補えばよいのかを。

結果の全体偏差値・合格可能性のみを見るのではなく、重視すべきは正答率・視覚化された「思考コード」上での正答率と偏差値である。正答率50%以上の問題は確実に正解出来るようにしたい。そのためにも、第一志望校の入学者選抜日(すでに発表されている)から逆算し、算出された日数のいく日かを、可能な限り早急に、何よりも“基礎・基本力”をしっかりと身につけるといふ観点での学習にあてて欲しい。より言うならば、合格可能性のアップのために、“まだ間に合う”の気持ちで、弱点と思われる学習領域の基礎固めから再起動である。

その後の学習スケジュールは、受検生の学力にもよるが、基礎力再養成～応用・発展力養成～志



今回の「ブレイク」掲載(公立中高一貫校レポート)19)でご紹介している、さいたま市立大宮国際中等教育学校

望校過去問に取り組む～入学者選抜直前の学習、へと進めたい。さらにもう一つ重要なこと、それは弱点の克服だけではなく、得意教科の得点力アップも忘れずに、ということである。

さて、本題に入ろう。「公立中高一貫教育校＝公立中高一貫校」は、約20年前の1998(平成10)年6月の学校教育法改正を受けて、翌1999(平成11)年4月開校の宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校から設立が始まった。当時の文科省の掲げた「中高一貫校全国500校計画」のスタートである。その後、首都圏(ここでは東京都・神奈川、埼玉、千葉、茨城各県)では、2003(平成15)年に埼玉県立伊奈学園中学校が開校され、その後2017(平成29)年4月までに計24校(東京11校・神奈川5校、埼玉2校、千葉3校、茨城3校)が設立され、昨春(2019年)には、埼玉県に首都圏の公立中高一貫校として初の「IB(国際バカロレア)教育プログラム」導入校となる、さいたま市立大宮国際中等教育学校が開校。今春(2020年)には、茨城県に県立校として一挙5校が開校した。さらに来年度(2021年)には、川口市立高等学校附属中学校が開校予定である。これまでに開校した都・県・市立各校の例を見るまでもなく、それら首都圏計30校の公立中高一貫校は、いずれも各地域において大きな人気を集め、人気校として認知され、多くの小6生が受検に挑戦している。首都圏公立中高一貫校全体の今春の入学者選抜応募者・実受検者数は、応募者18,237名(実受検者17,602名)となり、そのうち合格者は3,344名で

あった。実際に受検した小6生のうち、14,135名は、残念ながら志望した各公立中高一貫校入学の夢はかなわなかったことになる(単純実倍率5.2倍)。この数字からは、従来の国立・私立中学校入試と比較しても、公立中高一貫校入学者選抜が、より厳しい“選抜”であると言えるだろう。

しかし、その厳しい“選抜”の現実を見ても、毎年多くの受検生及び保護者が公立中高一貫校への入学を夢見て、努力し、受検を志す。なぜだろうか？その答えは、その受検が受検生のこれからにとって決してマイナスにはならず、逆に多くの点でプラスになることを感知しているから、ということになるだろう。

その一つが、各公立中高一貫校の「適性検査」=入学者選抜に合格することを目標として学習を進めることによって身につく力(ここでは、あえて人間力と呼ぼう)は、現在の小6生が改革7年目の当事者となる2026年以降の、本格的に実施されているであろう「新しい大学入試」への対策にもつながる力であるということだ。

「中高6年間一貫教育」を知ることが、より良い学校選択に直結する！

もう一つは、(受検可能な)公立中高一貫校を志望校=進学校として考える過程で、受検生自身と保護者の目が「中高6年間一貫教育」に向けられたことにより、「わが子のこれからの教育環境」を考える上で、その視野が大きく広がったということだ。

全国各地に開校している各公立中高一貫校、その中でも「中等教育学校」(完全中高6年間一貫教育校)及び「併設型中学校」(母校となる高等学校に併設された中学校での教育課程修了後、原則として無試験で高等学校に進学できる中学校)が開校当初からめざしたことは、それまで私立中高一貫校

が実現してきた「中高6年間一貫教育」の持つメリットやその優位性、獲得してきた成果等を「良い点は見習い、吸収する」という姿勢で私学の培ってきたノウハウを取り入れ、それを公立学校でも実現し、多くの小学生に進路の選択肢として提供することであった。

その目的実現のため、公立中高一貫校のほとんどは、各地域(学区)のトップあるいは準トップに位置する公立高校に中学校を併設したり、高校募集を廃止して中等教育学校に改編したりして開校された。

そうして開校された公立中高一貫校には、当然のこととして、卒業後にはレベルの高い難関あるいは有名大学への合格=進学を可能にする高度な学習指導と、同時に大いなる進学及び進路実績が期待された。その後、実際に各公立中高一貫校で中高6年間一貫教育を受けた卒業生が、その期待を裏切ることのない高い進学および進路実績をあげていることは、誰もが認めるところである。そしてそれは、今後も変わることはないと予想される。このことも公立中高一貫校の大きな魅力の一つである。

当初はこうした高度な教育水準、高い進路(大学合格)実績等への期待から、居住地から通学可能な各地域の公立中高一貫校合格=進学を考えた小学生及び保護者は、学校説明会や各種公開学校行事等に参加して(本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各校とも当初の計画通りに開催及び実施することが困難な状況にはあるが)、その教育内容(シラバス・カリキュラム・各種教育プログラム・課外学習・学外での活動等)を実際に自身の目で確認していく中で、「中高6年間一貫教育のメリット及びその優位性」についての理解度が高くなり、それを一つの物差しとして地域の公立中学校や私立中高一貫校と比較検討する(出来る)視野と視点が拡大したことは想像に難くない。

例えば中学3年間で考えても、地域の公立中学



特集 4カ月後に迫った2020年度大学入試改革にも適応する、公立中高一貫校入学者選抜「適性検査」問題を解く力

校と「中高一貫校」との差は明らかである。各教科の学習内容の量や教材、進度及び深度、実験・体験やフィールドワーク等の各種学習活動に割かれる時間数（機会数）等々。また、電子黒板やPC（ノート・デスクトップ）・タブレットの活用等の「ICT教育」の内容や教育施設・設備等においても、地域の公立中学校との差＝内容やスピードの差は顕著であると言える。

このような教育のソフト及びハード面での「中高6年間一貫教育ならではの」私立中学校と地域の公立中学校との格差は、公立中高一貫校をも含めた「中高一貫教育校」に保護者の目を引きつけ、それらの学校の教育の在り様を知れば知るほど、保護者はより実感させられることになるだろう。直近での話をするなら、全国の公・国・私立の小・中・高等学校が一斉休校した3月から6月までの間で、首都圏の約90%の私立中・高等学校で6月上旬までにはオンラインを活用した教育活動を開始していたのである(首都圏中学模試センターのアンケート調査結果による)。

さて、ここまでお話してきたところで、保護者の皆様には是非ともお聞き頂きたいことがある。

それは、わが子＝受験生に合った学校を選択し、受検～合格～進学させて頂きたい、ということである。こんなことは当然過ぎることだし、わが子を受検させるからには合格＝進学させたいと考えない保護者など存在するわけがないとも思う。だからこそである。私立中高一貫校には、各校独自の建学の精神や理念があり、その精神や理念に沿った様々な教育活動が日々展開されている。私立中高一貫校への進学を志望＝受験する受験生及び保護者は、直接・間接を問わずそれらに触れ、先ずは自分(わが子)が進学するにふさわしい学校か否かの観点で考え、比較し、決定＝志望校としていく。それと同様のことを、公立中高一貫校進学を志望

首都圏模試センターの「合判模試」の成績表にも「思考コード」の分類による各領域の偏差値が反映されている。

正解	正解率 (得点率)	思考 コード	能力	科目	思考 コード	偏差値	
○	88.1% (94.8%)	1	(7)	計算	算	5	内算
○	86.0% (94.3%)	1	(3)	条件整理	算	5	内算 国算
○	83.5% (93.3%)	1	(3)	計算	算	5	内算
○	80.5% (95.6%)	1	(4)	計算	算	5	内算
○	68.9% (86.1%)	1	(3)	計算	算	5	内算
○	68.0% (89.5%)	1	(5)	比	算	5	内算
○	64.5% (74.7%)	1	(3)	分数の数列	算	5	内算 国算
×	62.5% (84.8%)	1	(7)	法則配分	算	5	内算
○	58.3% (81.3%)	1	(5)	平面図形の移動	算	5	内算 国算
○	56.0% (85.7%)	1	(3)	水量変化とグラフ	算	5	内算
○	47.7% (62.6%)	1	(2)	条件整理	算	5	内算 国算
×	45.2% (54.6%)	1	(3)	場合の数	算	5	内算
○	42.0% (64.0%)	1	(3)	面積と辺の比	算	5	内算 国算
○	41.9% (63.7%)	1	(4)	平面図形の回転	算	5	内算 国算
×	34.0% (52.5%)	1	(1)	約数と余り	算	5	内算

＝受検する受験生及び保護者にもして頂きたいのだ。申し上げるまでもなく、公立中高一貫校は“公立校”である。が、前述した通り公立中高一貫校のほとんどの母体は各地域の公立トップ高及び準トップ高であり、もちろん歴史もある(中高一貫校化するに際し、卒業生等から反対の声があがった例さえある)。また、新しく創立された公立中高一貫校なら、歴史こそ浅いが、より一層これからの中等教育に対する理念や思いを具現化しやすい環境にあるだろう。そこには先達が営々と築いてきた各校ごとの学びの精神・歴史があり、それを抛り所として、公立校として順守すべき範囲の中で各校独自の教育活動をこれまで展開してきた。言うならば、各校には教育活動に対する各校独自の考え方があり、ノウハウがあり、つまり個性＝違いがあるのだ。だからこそ、受検にあたって、地域に選択可能な公立中高一貫校が複数校あるなら、あらゆる情報を入手し、先ずわが子の進学先としてふさわしいか否かを考え、その上で決定して欲しい。前述したが、本年は新型コロナ感染防止の

ため、学校説明会・学校公開行事等の実施を中止あるいはオンラインでの発信に変更する学校も多い。しかし、各校のホームページの閲覧や入試に関する情報掲載の出版物等の入手、また、今後受検生及び保護者が参加可能な各種行事が実施される場合には、積極的に参加されることを望みたい。

いま(現在)からでも出来ることを、一つひとつ確実に実行しておきたい。後悔することのないように、である。

次に、いくつかの公立中高一貫校の教育目標を記すので、是非参考として頂きたい。いずれも抜粋ではあるが、必ずやお役に立てることと思う。他校についてもホームページ等で確認して欲しい。

<教育目標>

・東京都立小石川中等教育学校

「立志・開拓・創作」の精神を中核に据え、自ら志を立て、自分が進む道を自ら切り拓き、新しい

首都圏模試センターの「思考コード」で
 多様な中学入試の思考のレベルの特徴を知る

首都圏模試も偏差値以外の評価軸

変換操作	全体関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑操作	カテゴリ	複雑 2	A2	B2	C2
手順操作	単純関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A 知識・理解思考	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造

文化を創り出すことの出来る人材を育成する。

・神奈川県横浜市立横浜サイエンスフロンティア
 高等学校附属中学校

(教育方針は)「驚きと感動による知の探究」。探求力、創造力、自立力、コミュニケーション能力を備えた、グローバルリーダーたるサイエンスエリートを育てる。

・埼玉県さいたま市立大宮国際中等教育学校

生涯にわたって自ら学び続ける力や、自分の頭

実際の入試や模試の問題(適性検査をはじめ、私立中の適性検査型・総合型入試、思考力テスト)で
 主に出题される問題も「思考コード」に当てはめて分類・分析することができる

難関合格スキル模試 ⇔ 御三家&難関校

変換操作	全体関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑操作	カテゴリ	複雑 2	A2	B2	C2
手順操作	単純関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A 知識・理解思考	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造

思考力テスト

変換操作	全体関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑操作	カテゴリ	複雑 2	A2	B2	C2
手順操作	単純関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A 知識・理解思考	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造

合判模試 ⇔ 中学受験スタンダード

変換操作	全体関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑操作	カテゴリ	複雑 2	A2	B2	C2
手順操作	単純関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A 知識・理解思考	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造

適性検査型模試 ⇔ 適性検査型・総合型

変換操作	全体関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑操作	カテゴリ	複雑 2	A2	B2	C2
手順操作	単純関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A 知識・理解思考	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造



特集 4カ月後に迫った2020年度大学入試改革にも対応する、 公立中高一貫校入学者選抜「適性検査」問題を解く力

で考え抜き、新しい価値を生み出す力など、国際的な視野に立って探求し続ける真の学力を育む。

・千葉県千葉市立稲毛高等学校附属中学校

確かな学力と豊かな心、調和のとれた体力を身につけたグローバルリーダーを育成する。

・茨城県立水戸第一高等学校附属中学校(来春開校)

(中高一貫教育の主なねらい)

生徒一人一人の夢や希望をかなえる学校であり、見通しをもって粘り強く取り組む力を身に付けるとともに、豊かな人間性を育み、地域や世界で活躍する人材を育成していく。

公立中高一貫校の「適性検査」と多様な 私立中入試で問われる力を「思考コード」 で読み解く

これまでお話ししてきた通り、もともとは公立中高一貫校のみを進学志望校として考えていた受験生及び保護者が、私立中高一貫校にも目を向ける機会を得て、その教育内容に実際に触れることでその良さを知り、それらの私立中が実施している(あるいは新設する)「適性検査型(総合型・論述型・合科型・思考力型等)の入試」も併願受験するケースが増加傾向にある。

首都圏中学模試センターの推計では、今春2020年入試で、「適性検査型(総合型・論述型・合科型・思考力型入試等を含む)入試」を実施した私立中は「149校」に上り、来春2021年入試ではさらに増加する勢いだ。

同時に、これらの私立中の「適性検査型入試」はもちろんのこと、それ以外の名称の新しいスタイル・タイプの入試は、いずれもが公立中高一貫校のみの合格=進学をめざして「適性検査」合格に向けた受験勉強(例えば、塾等で私立中合格に向けた4科目=国・算・社・理型の受験勉強ではなく、

2科目=国・算型で受験勉強をしてきたケースも多い)をしてきた小学生や、各種の習い事やスポーツ等に励んできた小学生にとっても、「挑戦=受験しやすい」形態及びコンセプトの入試が、そのほとんどであることにも注目して頂きたい。

実際のところ、今春2020年入試では、これら「149校」もの私立中が実施した「適性検査型入試」には、約13,000名もの受験生が挑戦した。来春2021年入試では、この受験生数がさらに増加することが予想されている。

ところで、2016年から首都圏中学模試センターの模試に導入され、2017年度からは個々の受験生の成績表にも出力(=掲載)されるようになった「思考コード」(下図)について、ここでご紹介したい。受験生の合格=進学の夢実現に向かって、その正確な理解及び活用が必ずやお役に立てるはずだ、と思うからである。

この「思考コード」は、それぞれの模試において出題される個々の問題ごとに受験生に「問われる力」を、この表のように分類し(作問の段階でそれぞれの問題が問う力を、この「思考コード」に基づいて設計し)、それぞれの領域(升目)の力ごとの正答率や偏差値を算出して、受験生一人ひとりの強みや弱点(=学習課題)等の学力特性を表す形で成績表にも表現したものだ。

詳しい説明をするには紙面が足りないが、こ

思考コードとは？

変換操作	全体関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑操作	対角線	複雑 2	35	68	C2
手順操作	単純関係	単純 1	49	48	C1
(数)	(言語)		A	B	C
			知識・理解思考	論理的思考	創造的思考
			知識・理解	応用・論理	批判・創造

では、例月の「合判模試」の問題や、難関私立中の（難易度の高い）入試問題、公立中高一貫校の「適性検査」問題、私立中の「思考力入試」で問われる範囲を示した図を7ページにご紹介しておこう。

「たとえばどんな問題？」
 フランシスコ・ザビエルを題材にした「思考コード」の各領域の出題例

変換操作	全体関係	変容 3	ザビエルがしたこととして正しい選択肢をすべて選り年代の古い順に並べなさい	キリスト教の日本伝来は、当時の日本にどのような影響を及ぼしたか、200字以内で説明なさい	もし、あなたが、ザビエルのように知らない土地に行って、その土地の人々を仲良く広めようとする場合、どのようなことをしますか、600字以内で説明なさい。
複雑操作	カテゴリ	複雑 2	ザビエルがしたこととして正しい選択肢をすべて選びなさい	キリスト教を容認した大名を一人あげ、その大名が行ったこと、その目的を100字以内で説明しなさい	もし、あなたがザビエルだとしたら、布教のために何をしますか、具体的な根拠と共に400字以内で説明しなさい。
手順操作	単純関係	単純 1	(ザビエルの写真を見て) この人物の名前を答えなさい？	ザビエルが日本に来た目的は何ですか？50字以内で書きなさい	もし、あなたが、ザビエルの布教活動をサポートするとしたら、ザビエルに対してどのようなサポートをしますか、200字以内で説明しなさい。
(数)	(言語)		A 知識・理解思考	B 論理的思考	C 創造的思考
			知識・理解	応用・論理	批判・創造

比べてご覧頂

くと、それぞれの入試(模試)タイプで問われる力の範囲が、かなりの部分で明確に異なっていることをご理解頂くことが出来るだろう。

例えば、公立中高一貫校の「適性検査」や、私立中の「思考力入試」では、縦の列の「A領域(=知識・理解)」の力が問われるのではなく、「B領域(=応用・論理)」や、学校によっては「C領域(=批判・創造)」の力が問われることになる。

挑戦する受験(受験)生としては、それぞれの入試に挑むための学習の仕方や学力観も、一般的な私立中入試とは異なるものとして理解しておくことが良いだろう。

この「思考コード」と、それぞれの領域にあてはまる出題を、多くの日本人が知っている「フランシスコ・ザビエル」を題材として例示したものが上の表である。このような形でご覧頂くと、イメージもしやすくなることと思う。

2020年以降の新たな大学入試にも直結する「適性検査」・「適性検査型」問題を解く力

さらに、「2020年大学入試改革」(2021年より

実施される大学入学共通テストの柱とも言える国語及び数学の記述式問題導入・英語の民間試験活用の見送りにより、前述した通り後退した感はあるか)をターニングポイントとして大きく変わる今後の大学入試で問われる力を示す文科省の図を、試みにこの首都圏中学模試センターが開発した「思考コード」にあてはめてみると、ぴったりと重なるのだ。

このことは、公立中高一貫校の「適性検査」に出題される問題や、私立中の「思考力入試」を始めとした多様なスタイル・タイプの入試が受験(受験)生に問う“力”は、取りも直さず現在の受験(受験)生が7年目以降の当事者となるこれからの新たな大学入試で問われる“力”に他ならない、ということを端的に示していると考えて良いだろう。

これまでお話ししてきたこと=意義も理解して頂いた上で、これから受験(受験)本番までの学習や日常の学習を進めて頂くならば、大切なお子様=受験(受験)生が挑む大学入試及び、それから先の社会でも役立つ“力”を、まさにいま(現在)育てていることが理解出来、そしてそれはこれからの学習の励みともなるのではないだろうか。